

平成28年度 食の安全安心と食育審議会「食育推進部会」議事録

日時：平成28年8月17日(木)

14:00～16:00

場所：兵庫県民会館 会議室902

1 議事

(部会長)

それでは、次第に従って進行させていただきます。1つめの議題「食育推進計画（第3次）の検討」について、事務局、説明をよろしくお願いします。

(事務局)

資料1、2、3により説明

(部会長)

ありがとうございました。資料1は計画改定のスケジュールです。こちらはほぼ日程が決まっていますので、ご協力をお願いします。資料2、3により、食をめぐる現状と二次計画の成果と課題について説明がありました。今年度が現計画の最終年度となり、最終年度の成果を踏まえ、第3次計画を策定することとなります。第3次計画へむけたご意見も後ほど伺いますが、まずは現在の第2次計画の成果と課題について、委員よりご意見いただきたいと思えます。

(委員)

第2次計画の重点課題である「未来を担う世代」への食育推進において、年間約5,000人の幼稚園児、小・中学校生を対象に活動を実施しています。内容としては、魚の講話（知識の普及）とともに料理教室を行っています。この活動を行うのは、講話と料理が両方できるボランティア講師です。今現在、10人の登録があり、明石と姫路で活動を行っていますが、もっと講師を増やしていきたい。また県下で広く行うことができるように、活動を展開していきたいと考えています。

(委員)

朝食を食べる人の割合において、成人ではあまり進捗が見られないということですが、子どもにおいては着実に推進しているという結果ですね。ある程度何かを食べることができたら、次は朝食の内容が課題ですね。主食、主菜、副菜がある、食事形態となるような視点も入れて、食事のバランスを意識した推進も必要ではないかと思えます。菓子パンだけが朝食の子どもも多いので、そ

ういった点に踏み込むことも必要だと思います。

取り組むべき課題の中で、新たな課題として、高齢者と単独世帯やひとり親世帯とありますが、どの点が新たな課題なのか。高齢者に特化しているということですか。

（事務局）

高齢者だけに特化しているわけではないです。世帯の形態が多様化してきたことを指しています。

（委員）

平均寿命を延ばそうと思うと、若い頃から良い食生活を積み重ねるべきだと思います。当面の間は、高齢者にも元気で長生きしてもらわないといけない。高齢者の低栄養も一方では問題になっているので、低栄養を第2次に続いて、残してはどうでしょうか。

兵庫県は平均寿命と健康寿命の差が男性は1.4歳と、全国的にみると、短いですね。

（事務局）

健康寿命の算出法が、全国的に一律ではなく、健康寿命という言葉だけでは、判断できないのが現状です。兵庫県が使っている指標と、同じ指標を使っている他府県と比較をすると、だいたい平均に近いです。指標の計り方については、元気と健康をどの範囲までとるかによって変わってきます。全体的には、こちらと同じ指標を使用する府県が増えてはきています。

（部会長）

言葉の使い方の概念は、誤解のないよう明確にしているほうがいいですね。

（委員代理）

「朝食を食べる人」の項目で、幼児1～5歳は減少、30代女性においても減少していますね。出産・育児との関係はあるのですか。母親が食べないから子どもも食べないといった傾向が見られるのか、分かれば教えてください。

もう1点は「1日1回以上、家族や友人と楽しく食事をする人」の割合で、70歳、80歳代で少なくなっています。70、80歳代以上の方々は孤食が多くなってしまうと思うので、先ほど少し話にもありました高齢者の単独世帯への取り組みも必要かと考えています。

（事務局）

まず1点目の、「朝食を食べる人」の項目ですが、30代女性を母親であるかどうかという点で区別を明確にした調査とはなっていないので、明確にするこ

とは難しいです。

子どもがなぜ朝食を食べないかという理由や、いつ頃朝食を食べなくなったかという時期を子どもに尋ねる問いでは、「親が食べないから、食べる習慣がない」と答える子どもはあまり多くないので、直接的な因果関係はあまりないと思います。またいつ頃朝食を食べなくなったかという時期を問うと、食べなくなる時期がまず、中学生以降が大きく増えるということ全体調査の中であり、母親が食べないことが全く関係していないということではないが、直接的な理由ではなく、他の要素で、子どもが食べていない、30代女性が食べていないというように考えています。

(委員)

未来を担う世代への食育推進は、様々な関係機関・団体で取り組まれており、子ども達への食育は着実に推進していますね。朝食を毎日食べる人の割合では、子どもの数字は高いが、食事の内容がやはり問題であると思います。学校でアンケートをとると、菓子パンと野菜ジュース等、中身のない食事の子が多い。子ども達の食育が着実に伸びても、保護者の食や食育に関する意識が欠けてしまうと、子どもに影響が出るので、子どもをもつ30～40代の関心を高めていく必要があると思います。

(部会長)

本来の食育は、家庭で伝えることですよ。家庭でできないから、こうして地域で伝えるようになった。一番大事なことは、家庭の食育力です。家庭の食育力の現状を把握して政策展開へつなげることだが、なかなか現状の把握も難しいところです。

(委員)

学校の給食献立表で、兵庫県産、西宮市産など産地記載を時々行っています。こういった記載があると、それがきっかけとなり、子ども達は興味を持って献立や給食を見ます。また昨年度、ほっとちゃんマークを集める取組みの呼びかけがあり、校区内のスーパーで生徒に探してもらいました。子どもも大人も、興味を持って取り組まれました。こういう少しのきっかけがあると、自分の食べている食べ物に関心を持つということを見ていて感じました。

朝食の内容もそうですが、朝食を全く食べていない生徒もいます。給食が1日の栄養源となっている生徒もいます。アレルギーがひどくて、家庭では全く食べていなかったけれども、給食で食べると、アレルギーもなく大丈夫であったという例もあり、1年で色んな食材を食べられるようになり、身体が丈夫に

なった生徒もいます。こういう例を見ていると、保護者に対してアプローチをもう少し工夫をすれば、もっと色んなものを食べる、食に関心を持たせることができると思います。

給食で、家庭では食べない食材、例えばひじきなどを給食で初めて食べる子がいます。給食でおいしさを覚えて、家庭で食べるという例も多くあります。家庭に上手く広げることができれば、変わっていくのではと思います。

(部会長)

神戸市の学校給食で一番残食が多いのは酢の物と聞きます。こういった現に果たしている食育の効果の確認も大切ですね。

(委員)

子どもへの食育の推進は着実に推進しているが、やはり朝食の内容が大切だと思います。講習学セミナーで勉強したが、貧困とこどもの食育の話で、東京都足立区をモデルに調査を行っていました。その中で「ベジ・ファースト」という言葉があります。とにかく“野菜から食べましょう”ということ。そうすると、朝食に野菜がないことに気がつく。ブロッコリー1つ、ミニトマト1つ付けることから始めることができます。先ほどから話しに上がっている朝食の内容と繋げることができればと思います。

(部会長)

食育のどこから手をつけるか。何から始めるか、もう一度考えても良いかもしれませんね。日本型の食事を進めるといっても野菜の摂取量は欧米よりも少ないです。野菜を大事にしようということを第3次計画の目玉にしても良いかもしれない。何か県民に訴えるキャッチが必要かもしれませんね。私個人的には朝ごはんの“ごはん”を進めることも良いと思います。朝ごはんといっても今はパンが多くなっていますからね。

(委員)

ごはん食とパン食の大きな違いは、ごはんを食べることには計画性があることです。洗って炊きあがるまでの時間を考えると、前の晩から朝ごはんの支度がある。ごはんを主に食べようと思うと、食生活全体の計画性がついてくる。カップ麺やパンなど、すぐに食べられる食材とは、違う性質があると、つくづく思います。

(部会長)

食事の支度をする事は、生活能力を磨かれますよね。

(委員)

私の世代でも朝ごはんはほぼパンです。パンを否定するのではなく、食べないよりは、まず食べる。菓子パンよりも食パンを選ぶ。そこに野菜、牛乳などをプラスすることを推進していくことも大切だと思います。

(部会長)

便利さは習慣と結びついていますね。習慣になると便利。多少時間がかかっても習慣になると楽。いかにごはんを食べることを習慣化するか、ですね。

(委員代理)

日本の食文化の中で、あさげ、ゆうげという言葉もありますね。日本の伝統食、地産地消を進める上で、これもひとつのキャッチフレーズかなと思います。

(部会長)

委員の皆さまから、現計画の成果についてご意見をいただきました。それでは続いて、第3次の骨子案につきまして、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料4により説明

(部会長)

ありがとうございました。第2次計画を反省し、第2次計画の骨子を説明いただきました。これについて委員の方からご意見をお願いします。

(委員代理)

第3次計画のひょうごらしさの点について、もう少し説明いただけますか。

(事務局)

第2次計画から引き継いだ形で、5つの国の食文化と震災の経験を兵庫らしさとして考えています。この点以外に新たに兵庫らしさがある場合は、委員の皆さまからご意見いただきたいと思います。

(部会長)

食育の取組みの中に兵庫らしさが見えにくいという意見だと思うが、ちなみに、兵庫県民の健康状態はどうなんですか。

(事務局)

食習慣や生活習慣に由来する健康状態について、兵庫県は全国平均並みです。例えば糖尿病の多い徳島県であれば、糖尿病を打ち出した取組みをしていますが、兵庫県の場合、特徴がないだけに、健康課題から食育を打ち出すことが非常に難しいです。

食育とは別の健康づくり推進実施計画においても、疾患から特色を出すのが

同様に難しい。逆に言えば、特徴がないのが兵庫県の特徴です。

(部会長)

健康課題から打ち出すことは難しいということですね。例えば野菜のように、何か新たにテーマを出すのも良いかもしれないですね。

(委員)

兵庫らしさがもう少し具体的にでたらと思うが、難しいですね。日本海と瀬戸内海、阪神間と幅広いので、一括りにするのはなかなかですね。

(委員)

兵庫県は都会から郡部まで本当に幅広いですね。ここから打ち出すのは難しいので、例えば、朝ごはんにテーマを絞り、特化したキャッチフレーズを付ける。食育は多方面で大切けども、5年間は朝ごはんに集中する。そして、もう少しインパクトのあるキャッチをつけると、住民に届きやすくなるのではないかな。

また、アンケートの結果を見ると、外食の方の割合が多い。「おうちごはん」が若い世代のSNS等で流行っている。朝ごはんとおうちごはんをセットに絞り込んで、何かキャッチを考えるのは、ひとつの案としてどうでしょうか。

(委員)

おうちごはんだけでなく、これからは外食や中食を充実させていく必要があると思います。栄養成分表示を正確に記載する、価格が手頃でバランスのとれた1食分を提供する等、選択の幅を広げる取組みが必要。高齢者や単身者が、これから新たに料理を始めるのは難しいです。おうちごはんはやりたい人は自分でいくらでもできる。できない人の為にむけた取組みが必要です。

総菜やお弁当は増えているが、もう少し健康的で、価格的にも手の届くもので、兵庫県産の食材を使って、なにか上手くできないでしょうか。

住民が食の選択力をつけて、選択力がついたら、各々に見合った食事を選べるような環境づくりが大切ではないでしょうか。

(部会長)

高齢社会への対応ですね、それは逆に若者をサボらせることに繋がるかもしれない…。若い世代の食育力をつけることも大切なので、対象者に応じた段階的な仕組みを考えないといけないですね。

(委員)

重点課題と施策展開を切り取って見ると、どの府県でもあてはまる計画にみえますね。兵庫県の農産物の収穫量は、全国トップのものが多い。このあたり

を上手くアピールできないでしょうか。

(部会長)

兵庫県には揖保のそうめん、玉ねぎ、神戸牛、など特産物、名産物がたくさんありますね。地域によって様々なので絞り込むのは難しいですが、そういうイメージですね。

(委員)

第2次計画の施策展開の中に、郷土料理の継承がありました。第3次計画でもぜひ継続して欲しい。また学習機会の提供や、本来の旬の食べ物を伝えるに取組みについても、継続してもらいたいです。

(部会長)

柱や骨子の中で、もう少しアピールするものを出したいというのが、ここまでの各委員の意見ですね。他意見どうですか。

(委員代理)

若い世代がひとつのキーワードですよ。20年後には東京オリンピック・パラリンピックがある。スポーツ栄養と絡めて食育を打ち出すのも1つかと。

兵庫らしさというのは、本当に難しいですね。兵庫は平均的、日本の縮図といわれているので。皆さんの意見を聞きながら改めて思いました。

震災の教訓はやはり1つの兵庫らしさかと。震災の時に、菓子パンばかり食べる避難者もいました。食育ができていれば、避難所生活の中でも、自分である程度自分で選択をして食事を組み立てることはできるのかな、と思います。

(委員)

兵庫らしさが全国的というならば、良いものが何でも揃っているということ。山も海もある豊かな食文化。良いものから何を選ぶか、難しいですね。あえて良いものが1つでないのが兵庫県。やはり5つの国ですね。

(委員)

施策展開の2にある「歯と口腔の健康」は、高齢者だけが対象ではなく、子どもにも必要です。虫歯の予防もそうだが、噛むことも大切です。噛む食べ物も身体によいです。噛むこと、歯磨き、貧困家庭のすくい上げがセットで取組みができるのではないのでしょうか。平均収入以下の家庭への支援も、大きな骨子のテーマからは逸れますが、忘れないでほしいです。

(委員)

兵庫県は食材に恵まれています。地物の味や調理の仕方を幼い頃に覚えておくと、大人になり都会に住んでも、それなりに食育を続けることができると思

います。やはり世代に応じた食べ物に対する計画が必要ですね。四季折々の食材や、作る楽しさを伝え、習得できるような第3次計画にできればと思いました。

(委員)

子ども達は刺激をすると、いくらでも吸収します。学校でごはんや野菜を育てて食べると、子どもはとても喜ぶ。本当に貴重な経験で、大きくなった時に成果となって現れればと思います。また家庭でも話ができるので、子どもを通して保護者にアピールができます。それが中学生になると、子から親へのルートが薄くなり、子ども自身も大人になるとその経験が薄れてきてしまうので、難しいですね。自分で口にするものに関心を持ってもらえるような第3次計画にしたいと思いました。

(部会長)

骨子についてご意見いただきました。今日の意見を参考にしながら、次回にむけて事務局で整理をお願いします。

委員のみなさんはまた次回お願いします。

(事務局)

保田部会長並びに委員の皆様方、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

今回いただいた意見を踏まえまして、また事務局で検討したいと思いますので、また次回よろしくお願ひいたします。

それでは閉会にあたりまして、松下課長よりご挨拶させていただきます。

(松下課長)

部会長のもと活発にご意見いただきましたありがとうございました。兵庫らしさであるとか、各ライフステージでの課題、目指すべきところについてご議論いただきました。今日いただいた意見を踏まえまして、各関係課とも連携をし、次回にむけて事務局で検討したいと思います。委員の皆さまにはまた次回、よろしくお願いします。

本日は長時間にわたり、どうもありがとうございました。